「メリット・デメリットの記載の見直し」についての回答票まとめ

追加する項目

1 学校規模による学校教育への影響

(1) 小規模校

	良さ（メリット）	課題（デメリット）
教育指導面	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年との縦の交流機会が多い ○教育活動 少人数であることを生かした教育活動(外国語・実技指導等)の充実が可能 ○学習内容の定着 個別指導・繰り返し指導の徹底による学習内容の定着化が図れる ○学校全体の集団としての一体感 異年齢の学習活動を組みやすく、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができ、集団としての一体感が育ちやすい。 ○保護者、地域とのつながり 保護者同士のつながりが深く、地域の人も子どもの顔を知っているため、保護者間や地域と連携した効果的な指導ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な学習・指導形態 グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。 ○男女比の偏りが生じやすい 男女比の偏りが生じやすいため、体育科の球技や音楽家の合唱等の集団学習の実施に制約を受けやすい。
学校運営面	<ul style="list-style-type: none"> ○地域との連携 地域との密接なつながりを活かした校外学習・体験活動ができる ○感染症対策 ソーシャルディスタンスが取りやすい ○異学年交流 異学年間の縦の交流が生まれやすい ○全児童への見守りの充実 全教職員で全校児童に関わり、学校全体で全校児童を見守ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育間のサポート体制 出張や休暇等で教員が欠けたときに、教員が少ないため補欠の対応が難しい。
安全面		

(2) 大規模校

	良さ（メリット）	課題（デメリット）
教育指導面	<p>○多様な学習・指導形態 グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りやすい。</p>	<p>・児童生徒が担任の先生に話したい事（伝えたい事・相談したい事・悩んでいる事など）があっても先生は忙しく話す事が難しい。また、先生も1人1人の児童生徒とじっくり向き合い、人間関係を築くことが難しい。 ・学校行事、部活動等、一人ひとりの活動機会が十分にとれない ・異学年交流は不十分 ○教育指導の制約 個に応じた指導やきめ細やかなフォローが難しくなる ○学年内や異学年間の交流 学年内や異学年間の交流を行う際、使用施設や活動時間の調整等が難しい。</p>
学校運営面	<p>○人間関係のトラブル対応 人間関係のトラブルが起きた場合、関係に配慮した学級編成ができる。</p>	<p>○クラス間の格差 学年の学習進度を揃えることが難しい ○公共（共同）？施設の利用制約 トイレが混雑して休み時間内にもどれない。 図書館蔵書が足りなくて希望の本が利用できない場合がある。 ○教育間のサポート体制 出張や休暇等で教員が欠けたときに、教員が多いので補欠の対応がしやすい。</p>
安全面		

○修正・削除する項目

※赤字 記載の修正・削除等の要望があった箇所

1 学校規模による学校教育への影響

(1) 小規模校の教育活動の特徴

	良さ（メリット）	課題（デメリット）
教育指導面	<p>○家庭的な雰囲気の中での丁寧な指導 子ども同士がお互い顔なじみであるため、家庭的な雰囲気の中で学習することができる。 また、1学級の人数が少ない学校も多く、教員のきめ細かな指導がしやすくなる。</p> <p>子供たち一人一人に寄り添い安心した学校生活を送らせることができる。また、保護者に対しても同様。</p> <p>○豊かな自然に囲まれた教育環境 小規模校の中には、豊かな自然に囲まれた地域にある学校もあり、自然を生かした教育活動を行いやすい。</p> <p>○多い活躍の場 授業や学校行事・部活動等において発表の機会等、一人一人の活躍の場面がたくさんある。</p> <p>○余裕のある施設や設備 理科室や音楽室等の特別教室や体育館を、余裕を持って使うことができ、調整や変更を柔軟に対応できやすい。</p>	<p>○話し合いや班学習の場面 話し合い学習では多様な意見が出にくい。 また、多くの班を作ることができず、他班との比較があまりできないため、学習への理解を深めたり、学習内容を広げたりすることが難しくなる。</p> <p>○複式学級の授業 複式学級では一人の学級担任が2つの学年の指導をするため、1時間の授業の中で交互に指導を受ける形になる。</p> <p>○一定の集団が必要な学習 体育における球技等集団で学習する場合、少人数のため正しいルールや試合方法を学ぶことが難しくなる。また、音楽においても合奏や合唱が行いにくい。</p> <p>○大きな学校行事 運動会や体育祭では、ダンスや集団競技等の団体種目は行いにくい。また、小学校高学年の児童は、準備・出場・後片付けと忙しく、ゆっくり観戦や応援する時間が取りにくくなる。</p> <p>○限られる選択肢 中学校の部活動では種目数が少なく、自分のやりたい種目を選ぶことができなくなる。特に野球やサッカーなど団体競技ではチーム編成ができない。</p>

		<p>○積極性や向上心 小規模校では、手を挙げなくても一人一人に発表の機会があるため、積極性が育ちにくい面がある。また、お互いを目標や参考にするといった向上心が育ちにくい。</p> <p>○固定化する評価 学年が1クラスの場合は、卒業まで同じ集団で過ごすこととなり、クラスの中で「算数が苦手」、「習字が上手」といった評価が子ども間で定着してしまい、それぞれの子どもに対するイメージも固定化したものになりがち。特にマイナスのイメージが固定化すると、その子どもにとってはつらい学校生活になってしまう。</p>
学校運営面	<p>○教員間の連携・協力 教員の人数が少ないため、教職員間の意思疎通を図りやすく、連絡調整や相互連携がしやすい指導方針や行事計画などがまとまりやすい。</p>	<p>○保護者の経済的な負担 修学旅行や卒業アルバムの制作などでは、保護者の経済的な負担が大きくなり、修学旅行の行き先が限定されたりする場合もある。</p> <p>○教員間の連携・協力 小規模校では同学年や同教科の教員が1名しかいない場合が多く、一緒に教材を作ったり、指導方法を話し合ったりすることができず、多様な指導ができにくい。</p> <p>○また、教職員一人当たりの校務の分掌も多くなり、また分掌への配置人数が少なく負担が大きくなる。</p> <p>○中学校の教員配置 小規模の中学校では、授業時間数に対応できるだけの教員数が配置されない場合がある。その場合、教科講師が配置されるが、教科指導の時間分の勤務しか認められないため、学級担任や部活動の顧問、その他学校運営に必要な事務の分掌はできない。</p>
安全面	<p>○安全管理面 緊急時の一斉下校や、保護者等への児童引き渡し等の際、下校指導が短時間で終了する。</p>	<p>○安全管理面 体育の水泳指導や緊急時の下校指導等では、割ける人数が少ないため、安心安全面で不安がある。</p>

(2) 大規模校の教育活動の特徴

	良さ（メリット）	課題（デメリット）
教育指導面	<p>○多人数の集団が持つ教育力 児童生徒が多く友人や教職員と出会うことで、集団の中での協調性や連帯感、積極性、向上心が育まれやすい。</p> <p>○同年代での切磋琢磨 多くの班を作ることができ、他班の意見や学習状況を比較し、学習への理解を深め、学習内容を広げていくことができる。また、同学年に複数の学級があるので、学級対抗の活動により切磋琢磨することで積極性や向上心を育むことができる。</p> <p>○活気のある学校行事 運動会や音楽行事等ではたくさんの種目や演奏を行うことができるなど、学校行事に活気生まれる。</p> <p>○多くの選択肢 中学校の部活動等では、種目が豊富であり、多くの選択肢の中から自分のやりたい種目を選択することが可能になる。</p>	<p>○難しい時間割の調整と授業での制約 学級数の多い学校では、音楽室や運動場の使用する際の調整が必要で、音楽の鑑賞を普通教室で行うなど、授業が制約されることもある。また、学級を2つに分けて授業を行う少人数指導も、余裕教室のない学校では実施できない。</p> <p>○校外活動での制約 社会科学学では多人数を受け入れてくれる施設が少ないこと、移動に多くの時間がかかるなど、教育活動が制限されることもある。</p>
学校運営面	<p>○保護者の経済的な負担 修学旅行や卒業アルバムの制作などでは、保護者の経済的な負担が小さくなる。</p> <p>○教員間の連携・協力 同学年や同教科の教員が多く、一緒に教材を作ったり、指導方法を話し合ったりすることができ、多様な指導が可能になる。また、校内研修の活性化が図れる。 また、教職員一人当たりの校務分掌は少なくなり、負担が少ない。</p> <p>○教員配置 学級担任や部活動の顧問、その他学校運営に必要な複数による校務事務分掌等が可能である。</p>	<p>○教員間の連携・協力 教員の人数が多いため、共通理解した取組を行う際の指導方針や行事計画など、綿密な打合せが不可欠となる。 共通理解・共通行動が難しい。</p>
安全面	<p>○安全管理面 体育の水泳指導や緊急時の下校指導等では、割ける人数が多いため、安心安全を確保しやすい。</p>	<p>○安全管理面 休み時間に遊ぶ場合、体育館・運動場等に多くの子どもが集まることになるため、曜日毎に使用可能学年を決めるなど、制限を設けている学校もある。また、緊急時の一斉下校等の際、下校指導に時間がかかる。</p> <p>○災害時、緊急時の対応 緊急時の一斉下校や保護者等への児童引き渡しの際、児童数が多いため時間がかかる。</p>